

調査項目

協議テーマ：子どもをとりまく社会教育のあり方について
—学ぶ喜びと居場所のために—

※子どもをとりまく社会教育（社会とのつながり、地域づくり、人材育成など）の観点から調査を行う。

1. 貴団体の活動（事業）について

- (1) 内容について教えてください。
- (2) 活動（事業）が始まったのはいつですか。
- (3) 始めたきっかけ・理由は何ですか。
- (4) 従事スタッフの人数、組織構成を教えてください（または、どのような方が従事しているか）。
- (5) 利用者（参加者）の人数、属性（例：年齢層、性別、国籍など）を教えてください。
（家庭の状況や子どもの背景などについても答えられる範囲で教えてください。
例：「両親共働き家庭」など）
- (6) 活動（事業）の場所を教えてください。

2. 貴団体の活動（事業）の特徴や課題について教えてください。

- (1) 貴団体の活動（事業）の強みや特長、力を入れていることについて教えてください。
- (2) 活動する（事業を行う）上で、心掛けていることがあれば教えてください。
- (3) 活動する（事業を行う）上で、貴団体にはどのような課題や問題がありますか。
- (4) 他の諸団体と連携していますか。それは、どのような連携ですか。

3. 「子どもをとりまく社会教育」についての考えを教えてください。

- (1) 「子どもをとりまく社会教育」という点で、仙台市ではどのような課題があると感じていますか。
- (2) 子どもが主体となったり、子ども目線を大事にした活動（事業）となるために、心がけていることや必要な支援があれば教えてください。
- (3) 今期の社会教育委員の会議では、子どもの社会教育には「学ぶ喜び」や「居場所」が重要だと考えていますが、「子どもの学ぶ喜び」や「居場所」のために心がけていることや必要な支援があれば教えてください。
- (4) 行政に求めることは何ですか。また、市民に求めたいことがあればお話しください。
- (5) その他、お話ししておきたいことがあれば、お聞かせください。

4. 地域グループにおいて調査したいこと
- (1) 参加者の募集方法（いつ、どのように行っているのか）
 - (2) 子どもが参加するきっかけ
 - (3) 団体の維持や運営に関する資金
 - (4) 団体を感じているニーズや参加者の変化
 - (5) 団体としての今後の展望

愛子スポーツ少年団

- (6) 女子児童が野球やスポーツをしたい場合どのような機会があるのか。

4. 外国グループにおいて調査したいこと

- (1) 活動を行う上での新型コロナの影響
- (2) 外国人の子どもたちとご家族には、実際どんな問題や悩みや苦労があるのか、どんなことを求めているのか。
- (3) 上記の悩みや要望を吸い上げる仕組みはあるのか。
- (4) これから益々増えるであろう外国人と市民が共生していくために、必要と思われることは何か。
- (5) 将来（今後の社会の変化や貴団体の活動の拡大など）を見通して、今後取り組むことが必要と考えられる活動として、どのようなものがあるか。

仙台観光国際協会（SenTIA）

- (6) 予算について
- (7) 帰国・外国人児童生徒の現状（データ含む）について
- (8) 支援団体の現状について
- (9) 支援活動の現状について（支援プログラムがあれば）
- (10) 支援活動を行う団体への支援について（金銭・人材・ノウハウなど）

外国人の子ども・サポートの会

- (6) 支援対象となっている児童生徒の状況（国籍・言語・必要な支援など）と、可能であればその時代ごとの変化
- (7) 貴会は設立 20 年を迎えたとのことですが、この 20 年の間に外国人やその子どもたちが置かれていた状況やその変化はどのようなものか。
- (8) 外国人やその子どもたちが必要としていること（ニーズの変化など）
- (9) 外国人児童生徒を活動に参加させるために行っていること
- (10) 外国人児童生徒を活動に参加させる上で望ましい支援
- (11) その他、活動の上で望ましい支援など（直接の貴会への支援のほか、地域の公共施設や企業に期待する活動など）
- (12) 会員・サポーター会員など、活動に関わる人の状況（可能であれば地域ごとの人数など）
- (13) 活動に関わる会員・サポーター会員のスキルアップの取組
- (14) 仙台で育った外国人の子どもたちが大人になった時の状況（日本に残っている？国に帰っている？など）
- (15) 仙台で育った外国人の子どもたちが大人になったあとの貴会とのつながりについて

国見小学校

- (6) 帰国・外国人児童生徒を対象とする取組を始めた経緯

(7) 帰国・外国人児童の現状（データ含む）について

①在籍状況

②日本語支援について

③支援プログラムがあれば

④帰国・外国人児童の保護者（家族）の学校行事への参加状況について

⑤外国人児童の保護者（家族）の日本語習得状況について

⑥地域との連携行事について

⑦課題について

(8) 外国人の子どもたちへの特別な配慮にはどのようなものがあるのか。

(9) ただでさえ忙しく大変な学校現場において、どのように配慮を行っているのか。

(10) 他の子どもたちは「外国人のお友達がいること」は、当たり前の光景として受け取っているのか、あるいは友達づくりなどで何らかの配慮が必要なのか。

(11) 帰国・外国人児童がいるクラスや学年などで、それらの子どもやその家族が持つ海外の経験や文化などを取り入れた活動があれば、その内容など

(12) 多様な言語への対応（支援員、学校図書館蔵書などでの多言語対応、「やさしい日本語」の活用状況など）

(13) 教員の対応能力向上のための取組（研修や地域団体との連携など）